

7. 学位の授与状況と研究成果

医科学専攻において過去5年間に博士(医学)の学位を授与した数は、次表のとおりである。

区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
課程博士	29	37	25	27	25
論文博士	10	11	9	5	6

8. 学生生活支援

(1) 奨学金の申請・採択状況

○日本学生支援機構奨学生出願・採用状況

年 度	第1種		第2種	
	出願者数	採用者数	出願者数	採用者数
平成18年度	1	1	0	0
平成19年度	2	2	0	0
平成20年度	2	2	0	0
平成21年度	1	1	1	1
平成22年度	1	1	0	0
平成23年度	0	0	0	0

(2) 授業料免除実施状況

年 度	在籍者数	前学期			後学期		
		申請	免除		申請	免除	
			全額	半額		全額	半額
平成18年度	171	16	0	15	11	0	11
平成19年度	173	14	10	4	15	11	4
平成20年度	184	18	6	9	15	7	8
平成21年度	173	19	10	7	18	12	5
平成22年度	169	18	6	9	14	4	9
平成23年度	193	19	10	7	11	7	4

9. 自己評価・課題と展望

「教育活動」の項で述べたいくつかの改編・改革の特徴、あるいはそれらの基盤ともなる、本研究科が掲げる教育・研究の理念や目標をより明確化するために、平成23年に、本学に先駆けて3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を明文化した。今後はこれらのポリシーひとつひとつを実のあるものとするために、現実を検証しながら進めなければならない。

本研究科における具体的な到達実績として「学位論文」があるが、近年いずれもピアレビューのしっかりした国際誌(英文)に掲載されたものが多く、個々の研究の水準は非常に高いものが担保されている点で、定性的にみて高い質的評価が得られている。しかし一方で、論文数という定量的な観点からみれば、年々論文数の減少という現実をみないわけにはいかない。いくつかの原因による複合的な結果の現れと思われるが、新臨床研修医制度によって、MD-PhDの制度新設やスカラシップの創設もまったく役に立たないくらいの、医学部出身者の大学院志願者の大幅な減少、基礎医学系分野は言わずもがな、臨床医学系分野への大学院進学者の減少は、一大学の問題ではなく全国的レベルの問題となってきた。これらはこれまで継続的な検討課題とはいえ、運営上もつとも悩まされるところであろう。これらのことの解決には学内の小手先だけの改編ではすまず、大学間で解決されなければならない重大な問題にも発展してきている。

いずれにせよ現時点では、量的には問題もあるものの、とりあえず質的なレベルは保たれているので、今後この点は維持しながらも、さらに量的な面を充実できるように一丸となって努力していかなければならないと思われる。